

# 令和3年度事業報告書

特定非営利活動法人 WE21 ジャパンこうほく

## 1 事業の成果

前年度と同様、新型コロナウイルス感染対策に迫られました。

緊急事態宣言が出された8月から9月にかけて2週間の休業、その前後は時短営業と感染対策に気を配りつつ、来店人数を制限しながら営業しました。地域の人たちは遠方に出かけられない代わりに、地元のWEショップを訪れてお客様同志・スタッフと情報交換し、WEショップは地域の居場所交流の場としての役割も果たすことができました。

組織としてオンラインで情報共有する力がつき、支援地や他地域NPO主催のオンライン報告会などに多数が参加できました。経産省月次支援金・復活支援金等を受けることができ、組織の基礎体力も回復傾向にあります。民際協力事業は、本年度も支援地訪問は叶いませんでしたが、支援先に助成金を送り、また難民支援の募金を始めることもできました。

## 2 事業内容（特定非営利活動に係る事業）

### I. 資源のリユース・リサイクルを推進する事業

#### 1) ショップ事業

##### (1) 大倉山店

- ・内 容 リユース・チャリティショップ運営
- ・日 時 通年 営業日数 265日
- ・場 所 横浜市港北区大豆戸町60-1
- ・従事者人員 ショップマネージャー3人、ボランティアスタッフと運営委員24人（延べ708人）
- ・受益対象者 市民 主に港北区南部・鶴見区
- ・寄付件数 2,227件
- ・事業高 6,534,986円
- ・支出額 6,613,361円

##### (2) 日吉店

- ・内 容 リユース・チャリティショップ運営
- ・日 時 通年 営業日数 266日
- ・場 所 横浜市港北区大豆戸町2-1 2-7
- ・従事者人員 ショップマネージャー2人、ボランティアスタッフと運営委員35人（延べ1,253人）
- ・受益対象者 市民 主に港北区北部・川崎市
- ・寄付件数 2,251件
- ・事業高 6,850,796円
- ・支出額 6,256,290円

## 2) 環境活動

使い捨てプラスチック製品は寄付として受取らない、プラスチック包装も極力受け取らないよう寄付者に協力を呼び掛けました。お買物にはエコバッグ持参を推奨し、包装も紙中心に努めました。

資源はガラス・陶器を毎月リサイクル回収に出すことで廃棄せず有効に利用されました。

羽毛の再生循環リサイクルを目指すグリーンダウンプロジェクト(GDP)の主旨に賛同して、3月より羽毛布団の回収を始めました。

	大倉山店(前年比)	日吉店(前年比)	備考
ファイバー (衣類リサイクル)	405 袋 (105.5%)	184 袋 (82.9%)	衣類のほかバッグも 回収・利用されました
ガラス・陶器の リサイクル	ガラス 8 箱・陶器 11 箱 (105.5%)	ガラス 4 箱・陶器 14 箱 (112.5%)	毎月1回の回収で、 再利用されました。
羽毛布団の リサイクル	羽毛布団 1枚 ダウンコート1枚	ダウンコート 2 枚	3月末に初回収組みをしま した
可燃物・不燃物の 廃棄費用	81,840 円 (99.3%)	48,884 円 (78.3%)	寄付件数の増加に関わらず 同程度か減少しました

## 3)

### リメイク活動

ボランティアで構成される3つのリメイクチームと連携して、販売できなかった寄付品等を利用したリメイク活動を行いました。感染予防対策をしながらそれぞれのチームは活動を行いました。リメイク教室は開催しませんでした。地域の「ご近所文化祭」に参加しリメイク品の販売と法人の活動アピールをすることができました。

## II. アジア等における市民、とりわけ女性の生活の向上と自立のための活動を支援する事業（民際協力事業）

収益からの支援額については、支援先団体からの切実な情報を受け、運営委員会で支援検討会を開催し、決定しました。

2021 年度総支出額 1,702,786 円

### 1) 海外支援 合計 1,480,129 円

#### (1) 農業センターを拠点とした（活用を通じた）農業技術指導による生計向上プロジェクト

- ・実施団体 カンボジア NGO CAE (The Center for Actions towards Equality)

- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々

カンボジアスバイリエン州コンボンロー郡タナオコミューン 429 世帯

- ・支援額 2020 年度収益金による 2021 年度事業への支援額 76,400 円

指定寄付 258,000 円 (2020 年度実施分)

店頭募金 5,595 円 (同上)

- ・プロジェクトの概要

これまでの活動で若い人材が育成されています。その若者たちを CAE がサポートして農業センターを拠点に知識と技能を習得する農家を増やしていき、組合員が魚の養殖・養鶏・野菜栽培を進めて市場参入するまでを目指す2年計画のプロジェクトを進めることができず、2021 年度送金した支援金は CAE 現地スタッフの人件費に充てることにしました。農協役員のサポートや農協からの借金返済を滞らせている会員への返済働きかけなどの活動を進めました。

#### (2) 有機農業の発展を通じたゆたかで幸福なコミュニティの構築

- ・実施団体 緑の芽有機農園学校

- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々

カンボジアタケオ州、カンポット州、コンポントム州有機農家

- ・支援額 2021 年度の収益金による 2022 年度事業への支援額 250,000 円

- ・プロジェクトの概要

小規模農家と消費者の生活を向上させる目的で、開拓的有機農家と協力して実施するプロジェクト。有機農家の能力強化とマーケティング支援を実施しました。有機稲作についてはリーダー7人が4県8コミュニティで148農家を育成、果物、野菜は有機125農家を育成しました。有機農園学校での若い農家インターンシップには若者21名が参加しました。2020昨年に続き2021年度も現地視察は実施できませんでした。

(3) チョコ募金キャンペーンを通じたイラク・シリア・福島支援

・実施団体 NPO 法人 JIM-NET (日本イラク医療支援ネットワーク)

・プロジェクトの対象となる地域及び人々

イラクにおける小児がんの子どもたち、シリア難民・イラク国内避難民、福島の子どもたち

・支援額 442,877 円 (チョコ募金 330,600 円、収益金からの支援 100,000 円、店頭募金 12,277 円)

・プロジェクトの概要

イラクの小児がんの子どもたちへの医療支援、JIM-NET ハウス (小児がん総合支援施設) の運営、イラクに逃れてきたシリア難民妊産婦・子ども支援、イラク難民キャンプでの支援、福島の子どもたちを放射能から守る活動への支援を行っています。

・続くコロナ禍でも、日本人スタッフが現地入りし、イラクスタッフと共に、難民キャンプへの医薬品支援、JIM-NET ハウス運営を丁寧に進めていることがオンラインの活動報告で分かりました。

(4) ミャンマー地雷犠牲者への義足支援

・実施団体 NPO 法人地雷廃絶日本キャンペーン (Japan Campaign to Ban Landmines)

・プロジェクトの対象となる地域及び人々

ミャンマー、カヤ州での地雷犠牲者 50 人 (目標)

・支援額 100,000 円

・プロジェクトの概要

ミャンマーはアジアの中でも犠牲者が最も多い国です。現地パートナーの KNHWO (Karen National Health Worker Organization) が、受益者のカウンセリングから義肢の製作までの一連の作業を実施しています。

(5) コーヒーの森づくり事業継続に向けての支援

・実施団体 フィリピン NGO コーディリエラ・グリーン・ネットワーク (CGN)

・プロジェクトの対象となる地域及び人々

フィリピンコーディリエラ地方ベンゲット州トゥブライ郡アンバサダー村コロス集落、および、タビヨ集落 (45 世帯)

・支援額 収益金による 2021 年度事業への支援額 100,000 円

収益金による 2022 年度事業への支援額 200,000 円

・プロジェクトの概要

台風被害が残り、森林が失われている地域に現金収入となる作物 (コーヒー等) を混栽し、環境に配慮した森づくりを行うことで、持続可能な森林再生・災害防止・生活向上を図ります。新型コロナウイルス感染拡大による影響が大きく、現地 NGO 存続のため 11 月にスタッフ給与 3 ヶ月分の支援をしました。その後、2022 年度以降の事業への助成金申請が届いたので、事業支援のための助成金を送りました。

2) 国内支援 合計 222,657 円

(1) 横浜山北リフレッシュプログラム

・実施団体 福島子ども・こらっせ神奈川

・プロジェクトの対象となる地域及び人々 檜葉町やいわき市周辺に住んでいる子どもたち

・支援額 0 円

本年度も保養と交流は中止となりましたが、福島の子どもの未来を考える活動は継続しています。

(2) 寿町生活困窮者自立支援

- ・実施団体 1、寿炊き出しの会 2、寿町越冬闘争実行委員会 3、寿地区センター
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 寿町地域並びに近隣居住者・横浜市内の野宿生活者  
(新型コロナウイルス感染拡大により職住等の行き場を失った人々を含む)
- ・支援額 1、寿炊き出しの会 47,135 円 (収益金 30,000 円、店頭募金 17,135 円)  
2、寿町越冬闘争実行委員会 20,000 円

・プロジェクトの概要

横浜市中区寿町地域並びに近隣居住者、障がい者、高齢者、野宿生活者等を対象に「寿地区センター」「炊き出しの会」等地域の支援団体が連携し合って炊き出し・バザー開催、訪問活動、医療・法律・生活・労働の相談活動を行っています。今年もコロナ禍の影響で新たに職住等を失った人たちにも、特別給付金受領や生活保護申請手続きへのサポートが行われました。こうほくからは上記2団体（1および2）への支援金のほか、寿地区センターにはバザーへの参加と衣類とマスクの寄付を行い、越冬支援炊き出しに参加し諸支援団体や地域の人との交流を通して地域の課題の理解に努めました。

(3) 放射能測定と医療活動支援

- ・実施団体 認定 NPO 法人 いわき放射能市民測定室 たらちね
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 いわき市及び原発事故被災地住民
- ・支援額 138,929 円 (収益より 100,000 円、店頭募金 38,929 円)

・プロジェクトの概要

福島第一原子力発電所の事故の8ヶ月後に設立された「たらちね」は2021年11月に10周年を迎えました。放射線量の測定から始まり、沖縄での保養、甲状腺検診、クリニック開設、精神保養施設開設と活動を広げてきました。2021年8月には中古のゲルマニウム半導体検出器1台の寄贈を受け、2台になって、セシウム測定がより正確に行えるようになりました。

(4) 「福島原発事故10年—私たちはどこへ向かうのか」への支援

- ・実施団体 福島原発事故10年実行委員会
- ・支援額 0円
- ・プロジェクトの概要

原発事故の10年を振り返る企画と講演会です。2021年3月開催の計画は、会場が新型コロナ緊急事態宣言延長により使用できず延期となり、再延期の末、2022年3月に開催されました。

(5) その他 子どもの生活支援

- ・実施団体 特定非営利活動法人子どもセンターてんぼ
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 家庭内に居場所を持たない神奈川県の子どもたち
- ・支援額 16,593 円 (全額店頭募金より)

・プロジェクトの概要

10代後半の若者は法や制度の狭間におかれ、保護や支援が届きにくい現状にあります。てんぼは、居場所のない子どもの電話相談事業、シェルター事業、自立援助ホーム事業（みずきの家）の3事業を運営し、緊急避難先や共同生活の場を確保し、子ども自身の選択による自立を支援しています。

2020年度以来、実施団体の法人会員となっています。

3) フェアトレード品の販売による支援

生姜パウダー、コーヒー、オリーブ石鹸の3品目を取扱い、生産者グループの生計向上に寄与しました。  
年間仕入額 計 160,035 円

・森育ちのしょうがパウダー

生産者：フィリピン・ベンゲット州住民組織ウバパス・ダイヨコン・ランパダ  
仕入額 58,248 円 (昨年比 151%)

- ・アシーラ石鹸 生産者：パレスチナ・アシーラ女性組合  
仕入額 0円  
生産団体が解散、仕入れ元に在庫が有る限り販売しました。
- ・シサムコーヒー 生産者：フィリピン・CGN（コーディリエラ・グリーン・ネットワーク）  
仕入額 101,787円（昨年比100%）

#### 4) キャンペーン

##### (1) 貧困なくそうキャンペーン 期間：10月11日～10月30日

今年は「フェアトレード」を取り上げ、こうほくがWEショップで販売している3つのフェアトレード品のカラーリーフレットを作成・配布し、生産地の様子を伝えました。また、掲示板型アンケートに参加してもらうことで、来店者に「フェアトレード」とフェアトレード品を扱うチャリティショップであることを広く発信しました。

##### (2) チョコ募金キャンペーン 期間：12月10日～2月10日

JIM-NETのイラク小児がん支援に賛同して、地域の皆さまに協力いただき、チョコ募金で病院や病気の子どもたちに医薬品を届ける活動に参加しました。イラクやシリアの子どもたちへの医療支援の他、がんの子どもたちと家族のための総合支援施設「JIM-NETハウス」の運営、院内学級の実施、イラク・シリアの難民キャンプに暮らす人々たちへの医療支援などにも使われました。

##### (3) 「3.11を忘れない」キャンペーン 期間：3月中

東日本大震災・福島第一原発事故から11年経ち、これまで継続して取り組んでいる福島支援として「いわき放射能市民測定室たらちね」の活動を紹介し『廃炉』と『子どもたちの未来への責任』についてスポットをあてて掲示し考える機会を持ちました。また、浪江町「希望の牧場」で被曝牛を飼い続ける吉沢正巳さんのドキュメンタリー映画『希望へのいのち』と講演会3/26の案内と、「福島原発事故10年企画実行委員会」主催の『福島原発事故10年』講演と展示3/4-7の案内をしました。

#### 5) 支援事業地訪問

新型コロナウイルス感染拡大の影響で国内外への移動が困難となり、海外支援事業地訪問はできませんでした。国内ではコロナ感染状況が厳しくない時に当該支援先担当者が寿町等の生活困窮者を訪問し、情報共有しました。

#### 6) 学習会・報告会の開催

新型コロナウイルス感染者急増のため現地訪問が叶わず視察報告会は開催できませんでしたが、以下の支援地の報告会にオンライン参加しました。

	主催・タイトル	参加者
7/21	JCBL セミナー 「韓国の地雷対策は今」	3名
11/9	JIMNET 主催 チョコ募金キックオフ	オンライン5名 DVD視聴15名
11/13	WE21 ジャパン主催 しょうがパウダーバーチャルスタディツアー 居ながらにして現地をみて、アイダさんのメッセージを聞くことができました。	3名
11/23	JCBL セミナー「アフガニスタン・タリバン統治下の地雷犠牲者の暮らし」	5名
3/1	JCBL25周年セミナー	4名
2/5	WE21 ジャパン青葉主催 たらちね報告会	3名
3/26	WE21 ジャパン青葉主催・こうほく共催 映画上映「希望へのいのち～吉沢正巳」と吉沢正巳氏講演会	会場 11名 オンライン5名

### Ⅲ. 組織活動

#### 1) 組織運営

- (1) 会員 期首 55名 期末 61名 (入会 10名、退会 4名) 目標 65人
- (2) 参加型の運営をすすめるために仕組み作り検討チームで話し合いを重ねて、ボランティアが参加する領域、役割を広げ高め、やりがいに繋げるとともに、ショップ事業、居場所としての機能を高めていく仕組みを考えました。
  - ・「仕組み作り検討チーム」を立ち上げました。参加型の運営を進めるためにメンバーを募り、6名(運営委員4名、ボランティア2名)で5回開催しました。
  - ・WEカフェの開催  
2018年度に手探りで始めて4回、2019年度は日吉店ボランティアを中心に13名でチームを作り5回開催しましたが、軌道に乗り始めたところでのコロナ禍で、2021年度も開催できませんでした。
  - ・ボランティアミーティング 大倉山店 1月12日(水)15名 日吉店 11月9日(火)16名
  - ・WE21 ジャパンこうほく 20周年記念実行委員会を立ち上げました。
- (3) 事務局体制  
事務局長1名(マネージャー兼任)、大倉山店3名、日吉店マネージャー2名  
事務局会議を2回(7月・2月)開催し、ショップ事業の円滑な運営に努めました。
- (4) その他
  - ・認定NPO法人として、より高い公益性を追求し、情報公開・適正な運営に努めました。
  - ・活動に賛同し、継続して以下の団体の団体会員になりました。  
認定NPO法人WE21 ジャパン、NPO法人JIM-NET、認定NPO法人子どもセンターてんぼ、NPO法人ピース・デポ、社会福祉法人横浜市港北区社会福祉協議会、港北区災害ボランティア連絡会
  - ・認定NPO法人として積極的に寄付金を募ることを掲げ、4個人と3団体から88,633円の寄付をいただきました。

#### 2) 広報

- (1) 会報・ニュースなど紙ベースの広報  
会報を6月と12月に発行、会員以外にも広く両店で配布しました。生活クラブ菊名・港北コモンズ組合員2,400余名を対象にカタログ組み込み配布を、またチョコ募金協力個人・団体にも配布しました。  
また、運営委員会の様子を伝える紙面を7月、3月に作成して会員に発信・郵送しました。
- (2) ホームページの運営  
コロナ禍における事業運営、ショップ情報やイベントの告知を、来店時の注意などとともに掲載しました。
- (3) SNS・ブログの運営  
フェイスブックに加え、ショップブログ、インスタグラムでも情報発信しました。Googleマップの閲覧回数も継続してカウントしています。

#### 3) WE21 ジャパングループおよび地域との連携

- ・WE21 ジャパングループのメンバーとして連携し活動しました。  
他地域NPOと共催し、オンライン講演会や映画上映を行いました。
- ・地域イベントの多くはコロナ禍で中止になりましたが、「菊名ご近所文化祭」には参加しました。
- ・地域団体にチョコ募金を呼びかけ、4団体の協力を得ることができました。  
(こどもの本の店ともだち、港北つるみ福祉ユニット、(社福)かれん、なんでも舎ケアサービス)

#### 4) その他

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、時短営業・人数制限などの対策を行いました。
- ・平和な社会づくりについて考え、講座参加・メッセージ発信・ウクライナ緊急支援募金を始めました。
- ・危機管理と防災の取り組みとして、WEショップスタッフ登録者全員を、区社協のボランティア活動保険に加入登録し事故や災害に備えました。